

浜松市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)(案)

に対するご意見ありがとうございました

市民の皆さんからの提出意見と
その意見に対する市の考え方の公表



令和5年11月から12月にかけて実施しました浜松市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)(案)に対する意見募集(パブリック・コメントの実施)に貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

意見募集を行った結果、市民等45人8団体から236件のご意見が寄せられましたので、それらのご意見とご意見に対する市の考え方を公表いたします。

ご意見につきましては、項目ごとに整理し、適宜要約し掲載しております。

また、お寄せいただきましたご意見を考慮して、「浜松市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」を策定し、令和6年4月からの実施を予定しています。

今後とも、浜松市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)に対するご理解とご協力をお願いいたします。

なお、この内容は、市ホームページ(<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp>)にも掲載しております。

令和6年2月

浜松市カーボンニュートラル推進事業本部

〒430-8652 浜松市中央区元城町103-2

TEL: 053-457-2502

FAX: 050-3730-8104

E-mail: ene@city.hamamatsu.shizuoka.jp

募集結果

【実施時期】	令和5年11月15日から令和5年12月14日		
【意見提出者数】	45人・8団体		
【意見数内訳】	236件 (提案 106件、要望 92件、質問 28件、 その他 10件)		
【提出方法】	持参(0) 郵便(0) 電子メール(215) FAX(2) 説明会等(19)		
【案に対する反映度】	案の修正	57件	今後の参考 122件
	盛り込み済	1件	その他 56件

目次

第1章	気候変動とその対策(意見数1件)・・・・・・・・・・	2ページ
第2章	計画の基本的事項(意見数1件)・・・・・・・・・・	2ページ
第3章	温室効果ガス排出状況(意見数2件)・・・・・・・・・・	2ページ
第4章	温室効果ガス排出削減目標(意見数16件)・・・・・・・・	4ページ
第5章	緩和策(温室効果ガス排出量削減に関する施策)	
1	2030年度目標達成のための施策の体系(意見数2件)・・	5ページ
2	目標を達成するための施策	
	基本施策1 徹底した省エネルギーの推進(意見数36件)・・	5ページ
	基本施策2 再生可能エネルギーの最大限の導入(意見数46件)	
	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11ページ
	基本施策3 新技術・イノベーションの推進(意見数35件)・	20ページ
	基本施策4 二酸化炭素吸収源の確保(意見数14件)・・	28ページ
第6章	適応策(気候変動適応に関する施策)(意見数19件)・・	30ページ
第7章	2050年長期ビジョン(意見数19件)・・・・・・・・・・	34ページ
第8章	計画の推進(意見数36件)・・・・・・・・・・	37ページ
その他	(意見数9件)・・・・・・・・・・	42ページ

第1章 気候変動とその対策（1件）

要望 1	<p>実行計画の冊子に年表を載せてくださる場合、字大きめで分かりやすくしていただけると嬉しいです。</p> <p>丁度パブコメ期間にCOP28がありました。日本は世界の中で温暖化対策についてまだ遅れていると認識されています。また化石賞もいただいています。年表には自戒の念も込めてまだまだと言うことも記載していただきたいです。</p>
-----------------	--

【市の考え方】その他

本計画5ページの表には、国際的な動向が大きく変化している中で、市の計画に關係の深い国際的な動向や国の動向を抜粋して1枚の表にまとめて記載しております。

そのため、全てを年表に記載するものではないこと、及び年表の文字が小さくなることについてはご理解ください。

第2章 計画の基本的事項（1件）

要望 2	<p>国連のアントニオグテーレス氏は「地球温暖化は終わり地球沸騰化の時代になった」と発言しています。浜松市も高い目標を目指す意味を込めて「地球沸騰化対策実行計画」という名前にするのはどうでしょうか。</p>
-----------------	---

【市の考え方】その他

計画の名称に関するご意見として承ります。

第3章 温室効果ガス排出状況（2件）

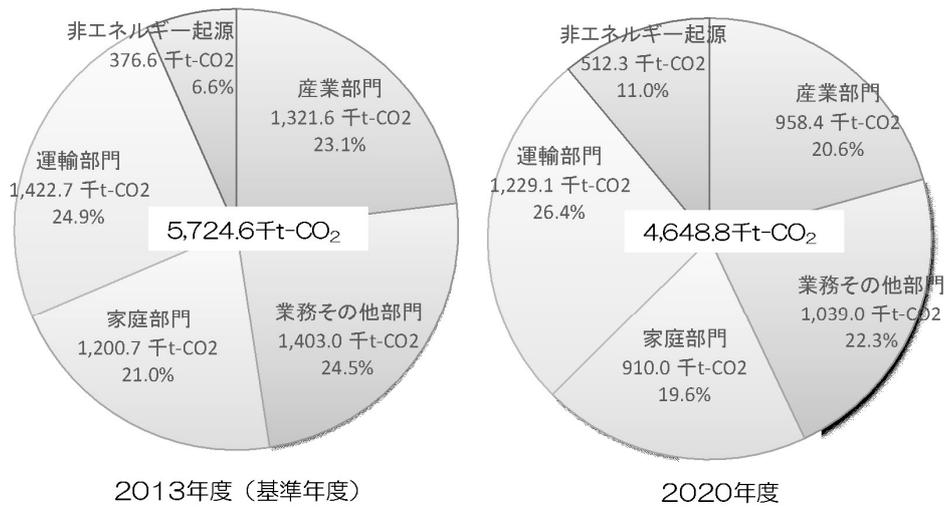
提案 1	<p>本市の温室効果ガス排出状況について 非エネルギー起源の温室効果ガスのうち、二酸化炭素は、2013年度（基準年度）で70.7t-CO₂が浜松市域全体から排出されていると記載されています。これらは、主に廃棄物を焼却したときに排出される二酸化炭素であると認識しています。</p> <p>しかし、別の計画ではありますが、浜松市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）においては、事務事業から排出される温室効果ガスのうち、廃棄物中の廃プラスチックと合成繊維由来の二酸化炭素は、2013年度（基準年度）で88,702t-CO₂が排出されていると公表されていました。非エネルギー起源の二酸化炭素について、浜松市域全体の排出量よりも事務事業からの排出量が多くなっており、整合性がとれていないと考えます。</p>
-----------------	--

【市の考え方】案の修正

浜松市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）と同様に、廃棄物中の廃プラスチック類と合成繊維を焼却したときに排出される二酸化炭素について、非エネルギー起源の二酸化炭素排出量として算入するため、下記のとおり2013年度（基準年度）の市域の温室効果ガス排出量を修正します。

また、各年度の修正後の温室効果ガス排出量は、本計画8ページ図表3.2のとおりです。

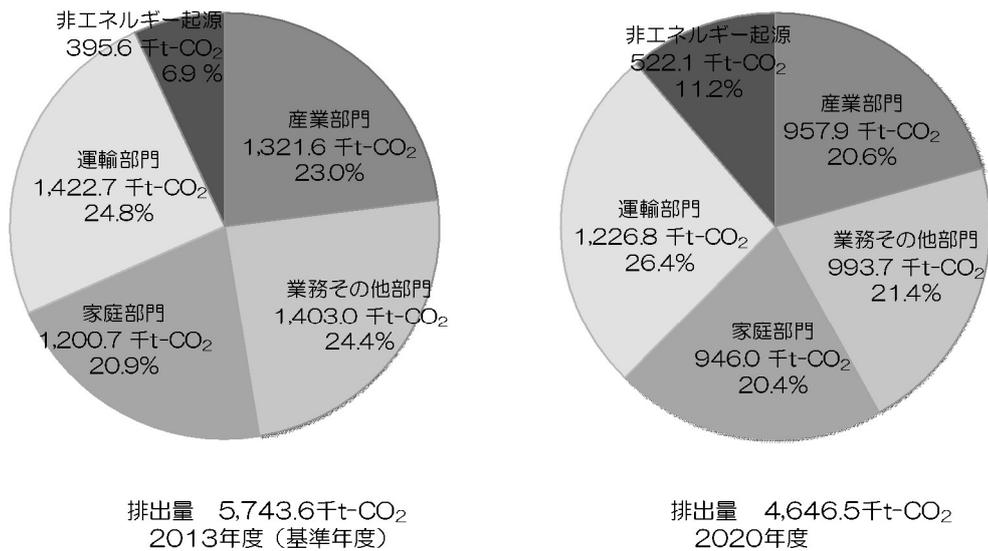
《修正内容》（修正後計画案 7 ページ、8 ページ）
（修正前）



図表 3.1 温室効果ガス排出量の内訳

※端数処理の都合上、合計値と内訳の数値が一致しない場合がある

（修正後）



図表 3.1 温室効果ガス排出量の内訳

※端数処理の都合上、合計値と内訳の数値が一致しない場合がある

要望 3	令和 6 年 3 月ごろに新しいデータに差し替えると書かれています。とても大事なことだと思います。世界の情勢も刻一刻と変わるので、それも盛り込んでいただきたいと思います。
-----------------	---

【市の考え方】案の修正

2020 年度の温室効果ガス排出量について、パブリック・コメント前は速報値を掲載していましたが、計画修正案では確定値を掲載しています。（修正後計画案 7 ページ、8 ページ他）

※修正前後については、提案 1 を参照してください。

第4章 温室効果ガス排出削減目標（16件）

提案 2 ～ 14 要望 4	<p>温室効果ガス排出量の削減目標引き上げを！2030年52.0%減(2013年度比)とありますが、日本が国際的な責任を果たすためには55～62%の削減が必要です。目標を62%削減に引き上げてください。</p>
	<p>目標値設定の考え方が説明されている点が良いと思います。「バックキャスト」の考えを取り入れ、パリ協定1.5度（産業革命以降の気温の上昇を1.5度に抑える）の国際的約束をまもるために、どれくらいの削減が必要か、浜松市ではどれくらい削減すべきかという考え方を加えていただきたいです。</p>
	<p>まず削減目標ですが、今開催されているCOPでも日本の気候変動対策の遅れが目立っています。地球規模の深刻な気候変動を解決するためには、国の方針に従うのではなく、国際的に求められる水準を設定することは必要だと考えます。2030年に最低でも60%削減が必要で、確かに高い目標ですがそこから何をすべきか計画を立てる時期に来ていると思います。</p>
	<p>温室効果ガス排出量の削減目標引き上げをお願いします。気候変動は絶望的なフェーズに入りました。再エネ、省エネを普及させて、大幅削減を目指してください。2030年までにどれだけやるかで将来が大きく変わってきます。</p>
<p>(同様の意見 外10件)</p>	

【市の考え方】今後の参考

目標の引き上げに関するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

本計画では、国の「地球温暖化対策計画」及び「静岡県地球温暖化対策実行計画」を基に算定した削減量と、市独自に算定した再生可能エネルギーの導入量に基づく削減量や森林吸収量を積み上げることで、国の削減目標を上回る「2030年度において2013年度比で52%削減」を目標設定しています。

要望 5	<p>2の下から2段目。「市独自に算定することで」とありますが、なぜ市独自なのでしょうか？とても気になります。なぜ市独自なのかの理由も記載していただきたいです。</p>
-----------------	--

【市の考え方】その他

再生可能エネルギー導入に基づく削減量と森林吸収量を独自に算定し、それぞれを増やすことで、基準年度比52.2%（2,999.0千t-CO₂）を削減目標としています。

再生可能エネルギー導入に基づく削減量は「浜松市エネルギービジョン」から市独自の削減目標を設定しています。

森林吸収量は「森林簿」に基づいた浜松市内の樹木の種類と齢級の区分別の面積から森林吸収量を推計しています。

質 問 1	52%の削減について、達成見込みがどの程度あるのか。
----------------------	----------------------------

【市の考え方】今後の参考

2030（令和12）年度において2013（平成25）年度比で52%削減することは、2050年度のカーボンニュートラルの達成ためには必要なことです。

「目標達成に向けた取組」を推進することで、目標を達成していきます。

第5章 緩和策（温室効果ガス排出量削減に関する施策）

1 2030年度目標達成のための施策の体系（2件）

提 案 15	1個目の表の目標達成に向けた取り組みなどの、再生可能エネルギーの地産地消のところ、「浜松新電力などを活用した電力の地産地消の推」で止まっています。おそらく「推奨」と入れたかったと思うので、直していただきたいです。
16	（同様の意見 外1件）

【市の考え方】案の修正

誤字であるため、下記のとおり「個別施策」と「目標達成に向けた取組」を修正します。

《修正内容》（修正後計画案16ページ、23ページ）

（修正前）

個別施策：再生可能エネルギーの地産地消

目標達成に向けた取組：

- ・（株）浜松新電力などを活用した電力の地産地消の推

（修正後）

個別施策：電力分野の地域経済循環

目標達成に向けた取組：

- ・（株）浜松新電力などを活用した電力の地産地消の推進

2 目標を達成するための施策

基本施策1 徹底した省エネルギーの推進（36件）

提 案 17	3行目 投資の伴わない省エネルギー化の表現は様々な捉え方ができて分かりづらく、実行計画の表現としては他を検討されてはいかがでしょうか。（例：PPAを連想、行動変容、等々）
-----------------------	---

【市の考え方】案の修正

「投資の伴わない省エネルギー化」という表現が分かりづらいため、下記のとおり本文を修正します。

《修正内容》(修正後計画案 17 ページ)

(修正前)

「市民・事業者に関わらず、まずは温室効果ガス排出量の見える化を進めた上で、投資の伴わない省エネルギー化を実施し、エネルギー削減による余剰資金を活用して設備導入を実施するなど、段階を踏んだ脱炭素化を推進します。」

(修正後)

「市民・事業者に関わらず、まずは温室効果ガス排出量の見える化を進めた上で、運用改善や脱炭素型ライフスタイルへの転換などの省エネルギー化を進めます。そして、省エネルギー化により削減できた光熱費をさらなる省エネ・再エネ設備の導入費用に活用するなど、段階を踏んだ脱炭素化を推進します。」

提案 18	事業活動の省エネルギー化のところで「自社の温室効果ガス排出量の見える化」とありますが、東京都で実施しているような「地球温暖化対策報告書制度」があるのでしょうか。もし、なければご検討をお願いします。
--------------	--

【市の考え方】今後の参考

本市に温室効果ガスの排出量の報告制度はありません。

報告制度に関するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

提案 19	建築物の省エネルギー化 令和5年度浜松市 CN 推進計画で「市施設 ZEB 化推進事業」で可能性調査が予算化されており、ZEB の導入推進についても表記が必要だと考えます。
質問 2	事業活動の省エネルギー化には「ZEB」の記載がない理由は。

【市の考え方】案の修正

ZEB の導入は、目標達成に向けた取組に必要であるため、下記のとおり「目標達成に向けた取組」を修正します。

《修正内容》(修正後計画案 18 ページ)

(修正前)

個別施策：建築物の省エネルギー化

目標達成に向けた取組

※記載なし

(修正後)

個別施策：建築物の省エネルギー化

目標達成に向けた取組

・ ZEB (net Zero Energy Building) の建設

要望 6 ～ 8	<p>今後、脱炭素の政策をこういう方向でやっていこうということは分かった。一方で、市民や事業者の方が具体的に何をやれば良いのかというのは分からないと思うので、もっと具体的にやることを書いて行く必要があると思う。</p>
	<p>自分に置き換えたときに何をやれば良いかがこの資料では、分からないので、具体策をもっと示していただきたい。</p> <p style="text-align: right;">(同様の意見 外1件)</p>
要望 9 ・ 10	<p>費用が掛かると取り組みにくい面があるので、省エネの仕方や効果を示すなど、取り組みやすくしていく工夫が必要と思う。</p>
	<p style="text-align: right;">(同様の意見 外1件)</p>

【市の考え方】 今後の参考

計画や取組の周知方法に関するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

計画や取組について市民や事業者の皆様に関わりやすく伝えるための概要版を作成し、各種セミナー等のイベントや相談会、出前講座、市HP、SNSなど様々な場面を通じて周知していきます。

提案 20 ～ 28	<p>日本の ZEH の定義では断熱等級 5 相当であり、断熱等級 5 では、冬季室温が「10 度」と、非常に不十分です。欧米並みの等級 6 以上の義務化が推奨されます。実は、日本では 2025 年にやっと等級 4 が義務化されますが、自治体は独自に基準を定めることができます。日本の CO₂ 排出の 1/3 が建築物由来なので、建築物の断熱性能をよくすることは CO₂ の大幅削減に貢献します。地元天竜産等の木材を利用した断熱等級 6 以上の新築・既築住宅を義務化し、ロードマップをつくって取り組んでください。</p>
	<p>「新築建築物の省エネ基準への適合」とありますが、日本の省エネ基準は欧州に比べ低いレベルとなっていますので、住宅でいう等級 6 程度を市独自に基準に設定しての推進を検討してください。</p>
その他 1	<p>断熱等級 6 の標準化施策の検討をお願いします。</p>
	<p>ZEH の定義をきちんと決めてください。決めなければ名ばかりの ZEH が作られることとなります。</p> <p style="text-align: right;">(同様の意見 外6件)</p>

【市の考え方】 今後の参考

ZEH の定義は、国に準拠しています。

ZEH の断熱等級については、検討課題として捉えていますので、いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。

提案 29 質問 3	<p>「デコ活」という言葉が出てきます。報道はされていたと思うのですが、私も周りの知人も全然体に入ってきていない言葉でした。「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」という説明だけではそれから先の想像力が働きません。デコ活という言葉を使うのであれば、もう少し誰もが「クールビズ」くらい知っているレベルになるまでは、細く説明を載せていただきたいです。</p> <p style="text-align: right;">(同様の意見 外1件)</p>
-------------------------------	---

【市の考え方】案の修正

「デコ活」は、2022年10月から国主導で実施されている「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」の愛称で、二酸化炭素(CO₂)を減らす脱炭素(Decarbonization)と環境に良いエコ(Eco)を含む“デコ”と、活動・生活を組み合わせた言葉です。

「デコ活」の説明として、下記のとおりコラムを挿入します。

《修正内容》(修正後計画案 20 ページ)

(修正前)

※記載なし

(修正後)

「デコ活(脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動)」のコラムの挿入

要望 11	<p>デコ活について環境省のHPをみましたが、こういったイベント的なものは効果が薄いように思います。(静岡県で行っているクルポなど)一部の人のみが参加するアクションにお金や時間を使うなら、ZEHの定義を決め義務化するなど市民すべてに影響のある施策を進めるべきだと思います。</p>
------------------	--

【市の考え方】その他

「デコ活」は、国が進める脱炭素型ライフスタイルへの転換を促す国民運動であるため、市としても「デコ活」を推進していきます。

要望 12	<p>スーパーや生活用品などを買う際にエコバッグを持参して使うのと同じように、マイボトル、マイタッパーが使える店舗や量り売りのお店の支援と推奨をして欲しいです。</p>
------------------	--

【市の考え方】今後の参考

ご意見で挙げられている脱炭素型ライフスタイルへの転換に関する支援や推奨については、「デコ活」を推進する上での今後の参考とさせていただきます。

要望 13 ～ 17	<p>ライフスタイルの転換に必要なのは「しくみ」を作ることです。啓発中心では温室効果ガスの排出量を半減するようなことはできません。啓発だけに留まらずに、具体的にどのような行動をすれば温室効果ガスの排出が削減できるのかを指し示し、人々の行動が自然と自動的に温室効果ガスの削減につながるような仕組みと制度を整えることが必要です。残念ながら、国が進める「デコ活」は気候変動の危機を理解しているものとは思えません。気候変動は問題は大きいですが、地球全体の問題で、緊急性が高いものです。特に今年の夏の気候が異常気象だったことは日本に住む全員が経験していることだと思います。日本は他国と比べても非常に対応が遅く、問題を軽視しています。ぜひとも浜松市が率先して自治体として新たなルールや条例となるものを制定して頂くようお願いいたします。</p> <p>コロナ禍で定着したテイクアウト文化や、キッチンカーも多くみられますが、とても便利で利用しやすい反面、ゴミが多く出ているのも事実です。そこで、可能な範囲でマイ容器を持参したり、キッチンカーなどのジュースなどもマイボトルやマイカップが使える選択肢が増えたら、ゴミも減ると思います。各々の店舗が意識して、行うことではありますが、気候変動に対して具体的に動いていくことは急務です。浜松市のきまりごととして提示すればスピード感を持って進められるのではないのでしょうか。</p> <p style="text-align: right;">(同様の意見 外3件)</p>
-------------------------------	--

【市の考え方】 今後の参考

脱炭素型ライフスタイルへの転換に関するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

市としては、脱炭素型ライフスタイルへの転換は、強制や義務を伴わない「デコ活」として推進していきます。

要望 18	<p>施策の中で、誰が主体になるのかを表記していただいているのがとてもよかったです。家庭生活の中で取り組めるところもたくさんあります。特に、廃棄物の燃焼のところで、プラスチックが特出しているようですが、「燃やすしかないごみ」は、分別でとても減ります。ごみの焼却でかなりCO₂削減できると思いますので、官民一体になって取り組みたいです。これを、またゴミのパブコメが出た時にうまくリンクさせていきたいと思います。</p>
------------------	---

【市の考え方】 今後の参考

プラスチックの分別に関するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

提案 30	<p>食品ロスの削減が二酸化炭素の削減につながるという記述は多くあるが、そもそも「ごみ」自体を減らすことを記載するか？何故、食品ロス削減が効果的かの追加文があると分かりやすい。</p>
------------------	--

【市の考え方】 その他

廃棄物の削減により、廃棄物の処理にかかるエネルギーが削減され、温室効果ガスの排出削減につながるため、ごみの削減・分別や食品ロスの削減など、引き続き廃棄物の削減を推進していきます。

質問 4	ごみ袋の有料化によってどれほどのCO ₂ 排出量削減につながるのか。
-----------------	---

【市の考え方】その他

ごみ袋の有料化による削減効果は算出していませんが、分別によるプラスチックの削減、布類などの資源物回収、廃棄物（ごみ）総量の削減などにより、二酸化炭素の排出削減につながります。

提案 31	太陽光発電導入に合わせた昼間沸き上げ型ヒートポンプ型給湯器の利用 既存や卒FIT太陽光発電設備にとっても、上げDR効果が期待できる設備であり「太陽光発電導入に合わせた・・・」 ⇒「昼間沸き上げ型ヒートポンプの導入による太陽光発電の自家消費の促進」の表記ではいかがでしょうか。
------------------	---

【市の考え方】案の修正

「太陽光発電導入に合わせた昼間沸き上げ型ヒートポンプ型給湯器の利用」は、運用にかかわる記載であるため、下記のとおり「目標達成に向けた取組」を修正します。

《修正内容》（修正後計画案 19 ページ）

（修正前）

個別施策：高効率な省エネルギー機器の導入

目標達成に向けた取組：

- ・太陽光発電導入に合わせた昼間沸き上げ型ヒートポンプ型給湯器の利用

（修正後）

個別施策：高効率な省エネルギー機器の導入

目標達成に向けた取組：

（削除）

提案 32 ・ 33	気候変動（気候危機）教育の充実 内閣府が公表した、「気候変動に関する世論調査」において、エコへの意識や関心はあるものの、気候変動、IPCC 報告書で人間の活動が地球を温暖化させてきたと断定する見解が示されたこと、パリ協定、脱炭素社会、どれも若い世代の方が知らない&関心がないという結果が明らかになりました。気候変動（気候危機）教育を充実させてください。 (同様の意見 外1件)
-------------------------------	--

【市の考え方】案の修正

「気候変動教育」は、目標達成に向けた取組に必要であるため、下記のとおり「目標達成に向けた取組」を修正します。

《修正内容》(修正後計画案 19 ページ)

(修正前)

個別施策：脱炭素型ライフスタイルへの転換

目標達成に向けた取組：

※記載なし

(修正後)

個別施策：脱炭素型ライフスタイルへの転換

目標達成に向けた取組：

・Eスイッチプログラム、出前講座などの環境学習の受講

提案 34	自転車を利用しやすい道路に。自転車で道路を走ると自転車用のスペースが大変狭く怖い。自転車用に道路を整備し多くの人が自転車に乗れるようにしてほしい。
------------------	---

【市の考え方】今後の参考

交通利用に関するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

自転車の利用環境に関しては、「浜松市自転車活用推進計画」において定めています。

要望 19	交通利用にかかわる省エネルギー化につきましては、市民がなぜ公共交通機関ではなく自家用車を利用してしまうのかを検証し、公共交通機関利用拡大をはかってください。また公用車のEV(ハイブリッドではなく)化をすすめてください。さらに一般市民の所有車についてもEV化を進めるため、インフラ整備をしてください。また、東京都が検討しているように新車販売においてガソリン車販売禁止を検討してください。
------------------	--

【市の考え方】今後の参考

交通利用に関するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

基本施策 2 再生可能エネルギーの最大限の導入 (46件)

提案 35	緩和策については、地元で再生可能エネルギーを最大限つまり、COPで合意されるように2030年までに再エネを3倍としてください。これは雇用の創出をはじめ地元利益が還元する循環を作ることができます。国の観点からも貿易赤字の削減に貢献できます。排出削減同様にエネルギーの使用量を減少する省エネも大事
要望 20	2030年度の導入目標が明示されているが、それぞれの発電についてはいろいろな設備の仕方があることが、上の表で示されている。それにあわせた形での導入目標を示すべきではないでしょうか？例えば太陽光発電の場合は、住宅や工場の屋上などへの設置によってどのくらいの発電量が確保できると考えているのか？

要望 21	風力発電では陸上と洋上とでそれぞれどのくらいの発電量を目標としているのかなど、目標数値を算出している根拠を具体的に示すことで、それが目標として達成出来るのかどうかの判断にもつながるのではないのでしょうか？
要望 22	2030年度の太陽光発電の導入目標として、720,000MWhを掲げています。太陽光発電については、年間約50,000MWhのペースで導入されていると伺っており、まだまだ導入が進むと考えられますので、より高い目標を掲げることができると考えます。
要望 23	2030年度の風力発電の導入目標として、517,240MWhを掲げています。風力発電については、天竜区において環境アセスメントなどの手続きが進んでいた陸上風力の計画が中止になっています。また、現在、環境アセスメント中の計画は、配慮書段階であることから、2030年までの稼働は難しいと感じます。これらのことから風力発電の導入目標の達成は、困難ではないかと考えます。

【市の考え方】案の修正

再生可能エネルギーの導入状況と2030年までの導入可能性を再度検討した結果、下記のとおり再生可能エネルギーの導入目標を修正します。

日照条件に恵まれた本市においては、住宅・工場などの屋上や遊休地などへの太陽光発電の導入を積極的に推進することとし、毎年の導入量については、直近5年間（2018-2022年）の平均51,000MWh/年以上を目標としています。

風力発電については、2030年までに新たな発電事業が開始される可能性が相当低いため、現状の発電量を目標としています。

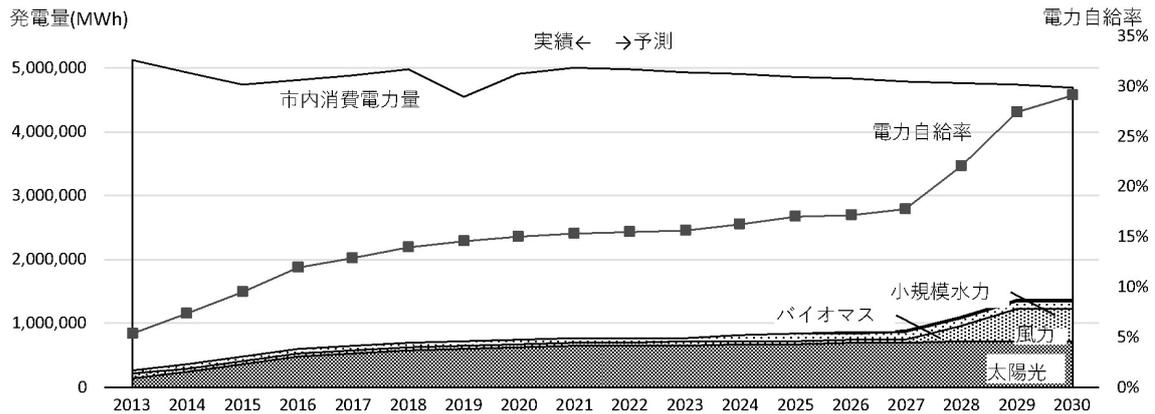
バイオマス発電や小規模水力発電については、本市が把握している民間事業者の導入計画をもとに目標を設定しています。

《修正内容》（修正後計画案 23 ページ）

（修正前）

再生可能エネルギーの導入目標（大規模水力を除く）

発電量 (MWh)	2013年度 (基準年度)	2020年度	2030年度 (目標)
太陽光発電	158,507	630,000	720,000
風力発電	51,724	51,724	517,240
バイオマス発電	66,472	69,000	121,880
小規模水力発電			11,040
計	276,703	750,724	1,370,160
再エネ電力自給率	5.4%	15.0%	29.2%



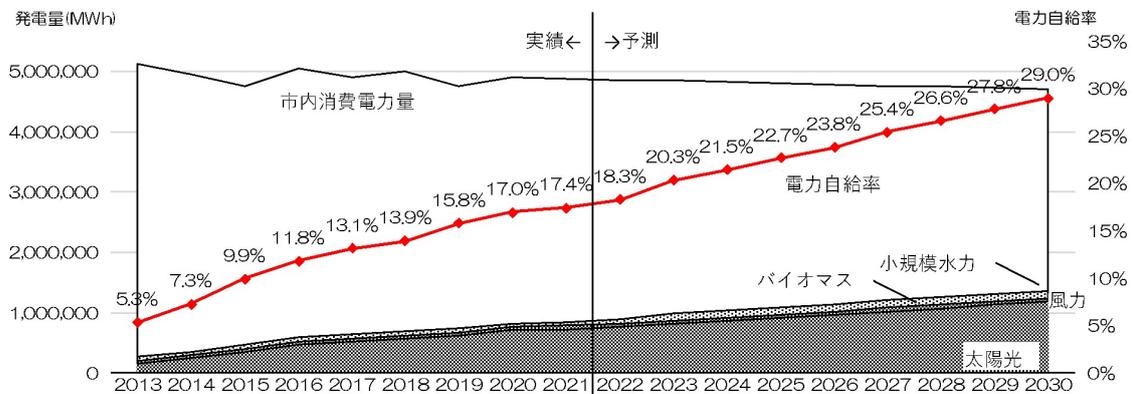
図表 5.2 再生可能エネルギーの導入目標及び自給率

(修正後)

再生可能エネルギーの導入目標（大規模水力を除く）

単位：MWh

発電種別	2013年度 (基準年度)	2021年度 (実績)	2030年度 (目標)
太陽光発電	154,886	733,425	1,179,000
風力発電	51,724	52,033	52,000
バイオマス発電	66,472	66,117	131,000
小規模水力発電			2,000
計	273,082	851,575	1,364,000
再生電力自給率	5.3%	17.4%	29.0%



図表 5.2 再生可能エネルギーの導入目標及び自給率

提 案 36	家庭での電気を再生可能エネルギーにシフトチェンジすることも推奨して欲しいです。大きな企業は大前提ですが、市民活動の中で気候変動に対して具体的な取り組みをしていくことは、一人一人の意識へも影響すると思います。
-----------------------	---

【市の考え方】 今後の参考

家庭で使用する電気の再エネ化に関するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

家庭で使用する電気を再生可能エネルギー由来のものに変えていくことは必要なことであると認識しています。

要 望 24	各家庭への太陽光発電導入への補助や行政による再生可能エネルギー（原子力は含まない）への方向転換、地熱発電などへの開発研究費用の捻出などをお願い申し上げます。
-----------------------	--

【市の考え方】 今後の参考

再生可能エネルギーへの転換などに関するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

質 問 5	個人の土地で行う大規模発電施設を設置するために森林の伐採を行う例がみられる。保護の観点から行政が介入する余地があるのか。
----------------------	--

【市の考え方】 盛り込み済み

浜松市においては、「浜松市適正な再生可能エネルギーの導入等の促進に関する条例」を定めるとともに、「浜松市太陽光発電施設に関するガイドライン」や「浜松市風力発電施設に関するガイドライン」を策定し、地域と調和した再生可能エネルギーの適正導入を推進しています。

提 案 37	再生可能エネルギーの最大限の導入について、今年9月に中部電力の子会社シーテックは、天竜区龍山町・佐久間町にまたがる所で予定していたウインドパーク天竜風力発電事業について取りやめると発表しました。北遠地区はご案内のように近年の豪雨で国道・市道・林道への被害が目立ちます。土砂崩れの心配等を地域住民は心配しています。宮城県では条例で森林以外への誘導・課税等を導入するとの事。浜松市も検討に値すると思われれます。
-----------------------	---

【市の考え方】 今後の参考

再生可能エネルギーの導入に関するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

浜松市においては、「浜松市適正な再生可能エネルギーの導入等の促進に関する条例」を定めるとともに、「浜松市風力発電施設に関するガイドライン」を策定し、地域と調和した再生可能エネルギーの適正導入を推進しています。

提案 38	<p>住宅工場の屋根などへの太陽光発電への設置</p> <p>太陽光発電は今後オフサイト PPA で遊休地などを活用する野立てや建築物の壁面設置など設置方法は多様になると思われます。屋根に限定する表現は削除すべきではないでしょうか。</p>
------------------	--

【市の考え方】案の修正

太陽光発電の設置場所として遊休地なども考えられるため、下記のとおり「目標達成に向けた取組」を修正します。

《修正内容》（修正後計画案 22 ページ）

（修正前）

個別施策：再生可能エネルギーの最大限の導入

目標達成に向けた取組：

- ・住宅・工場の屋上などへの太陽光発電設備の設置

（修正後）

個別施策：地域と調和した再生可能エネルギーの最大限の導入

目標達成に向けた取組：

- 住宅・工場の屋上や遊休地などへの太陽光発電設備の設置

提案 39 ～ 49	<p>再生可能エネルギーの最大限の導入による CO₂ 排出削減目標の更なる引き上げと、「太陽光発電設備の設置義務化」を（P19）「再生可能エネルギーの最大限の導入」に「住宅・工場の屋上などへの太陽光発電設備の設置」とあります（P19）。再エネの拡大に、屋根置き太陽光発電設備の設置義務化は大変有効ですし、必要な施策です。すでに東京都と川崎市で新築住宅の屋根置き太陽光発電設備の設置をハウスメーカーに義務付ける条例ができています。浜松市でも「太陽光発電設備の設置義務化」し、推進してください。</p> <p>再生可能エネルギーの導入や、太陽光パネル設置義務化、既存住宅の断熱化に対する補助金のさらなる充実をどうかお願いします。</p> <p style="text-align: right;">（同様の意見 外 9 件）</p>
-------------------------------	---

【市の考え方】今後の参考

太陽光発電設備の導入義務化は、社会状況を見極めた上での検討課題として、今後の参考とさせていただきます。

既存住宅の断熱化に対する補助金についても、同様に今後の参考とさせていただきます。

提案 50	<p>カーボンニュートラルも再生エネルギーの導入の重要性は十分理解しておりますが、風力発電では周辺への騒音環境被害の考慮が、太陽光発電・EV 導入には、特に太陽光は設置当初より経年がたちそろそろ寿命を迎えると思います。EV 電池もしかりで産業廃棄物としての処理が増えてくると予想されます。特に太陽光パネル、電池には鉛等が使用されておると思います。又、粗悪な中国製造品も多く使われており今問題の有機フッ素と同等の環境問題が考えられます。策計画案の中に環境部と合わせた今後の環境保全に合わせた計画を盛り込んだカーボンニュートラル推進をお願いしたいです。</p>
------------------	--

【市の考え方】案の修正

風力発電は、「浜松市適正な再生可能エネルギーの導入等の促進に関する条例」に基づき、地域と調和のとれた再生可能エネルギーの適正導入を促進しています。

今後、太陽光発電設備・蓄電池などの再使用・再生利用や適正処分の推進が必要であるため、下記のとおり「目標達成に向けた取組」を追加します。

《修正内容》（修正後計画案 23 ページ）

（修正前）

※記載なし

（修正後）

個別施策：太陽光発電など発電設備の資源循環

目標達成に向けた取組：

・太陽光発電設備・蓄電池などの再使用・再生利用や適正処分

提案 51	<p>再エネの拡大に、新築・既存の家屋問わず、再生可能エネルギーを導入する世帯へ補助金などをはじめとするサポート体制をお願いします。</p>
提案 52	<p>再生エネルギーの多様性も必要だと思いますので、太陽光発電のみなどいわゆる再生可能エネルギーといえば、というものだけでなく。太陽熱温水器、薪ストーブ、断熱システム、また断熱施工や、場合によってはDIYなどの自主施工など、経済的に余裕がなくても地球温暖化に貢献したい人々に対する多様なサポートを制作で導入をしてください。</p>
要望 25	<p>記載されている取組みの中で、家庭でやるとお金がかかるものもあると思う。そうした場合に取組みが進まない事があると思うので、補助金等も含めて説明していく必要があると思う。</p>
質問 6 ・ 7	<p>再生可能エネルギーやモビリティ促進のために以前補助金を出していたが、現在も行っているのか。</p> <p style="text-align: right;">（同様の意見 外 1 件）</p>

【市の考え方】 今後の参考

市民向けの再エネ導入補助金などのサポート体制についてのご意見として、今後の参考とさせていただきます。

令和5年度は、「浜松市創エネ・省エネ・蓄エネ型住宅推進事業費補助金」として、太陽光発電システムの導入などに対する補助金交付や、「浜松市電気自動車導入支援事業補助金」として、電気自動車の購入に対する補助金交付を行っています。

質 問 8	太陽光パネルが劣化して出力が下がる。取り換えに対する補助を行う予定はあるのか。
----------------------	---

【市の考え方】 今後の参考

太陽光発電システムのパネルの取り換えに対する問題として、今後の参考とさせていただきます。

そ の 他 2	買電価格は年数が経つと大幅に下がる。下げるとしても下げ具合を何とかしてほしいが、行政としてどう考えているのか。
----------------------------	---

【市の考え方】 その他

固定価格買取制度（FIT 制度）及び電力会社により決められているものになりますので、市としては、これらの制度・ルールに沿うことになります。

要 望 26	電力の地産地消はとても賛成です。浜松新電力をもっと拡大&アピールして欲しいです。
-----------------------	--

【市の考え方】 その他

引き続き、浜松新電力などを活用し、再生可能エネルギーの地産地消を推進していきます。

要 望 27	再エネタウンなど、都市郊外など自然エネルギーを利用しやすい。かつ、都市に近い環境で実験的な再エネインフラを自治体規模のコミュニティでモデルケースや推進地区をつくるなど、革新的な試みを実施してください。
-----------------------	--

【市の考え方】 今後の参考

スマートタウン開発に関するご意見として、今後の参考とさせていただきます。これまで、市が関わった特徴的な民間事業としては、「一条スマートタウン開発事業」と「浜北区役所跡地等スマート化事業」などがあります。

要望 28	バイオマス発電は結局火力発電であり、CO ₂ を排出するため推奨には疑問があります。廃棄物の堆肥化など別ルートを考えるべきではないでしょうか。
------------------	--

【市の考え方】その他

バイオマス発電に関するご意見として承ります。

提案 53	小水力：龍山も木と水の資源が豊富である。そのためバイオマス発電所だけでなく、小水力発電も取り入れれば地域資源を豊富に活用できるのではないか。
------------------	--

【市の考え方】今後の参考

小規模水力発電に関するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

提案 54	家庭用蓄電池・産業用蓄電池の表記が無く今後の電力事情を鑑みると、どこかに導入促進を表記すべきではないでしょうか。
------------------	--

【市の考え方】案の修正

再生可能エネルギーの導入とともに、産業用・家庭用蓄電池の導入が必要であるため、下記のとおり「個別施策」と「目標達成に向けた取組」を修正します。

《修正内容》（修正後計画案 22 ページ）

（修正前）

個別施策：再生可能エネルギーの最大限の導入

目標達成に向けた取組：

※記載なし

（修正後）

個別施策：地域と調和した再生可能エネルギーの最大限の導入

目標達成に向けた取組：

・産業用・家庭用蓄電池の導入

質問 9	太陽光発電や蓄電池について、メリットは何か。
-----------------	------------------------

【市の考え方】その他

太陽発電システムと蓄電池をセットで設置することで、夜間や雨天時など太陽光で発電できないときに昼間に蓄電した電気を利用することができます。このような再生可能エネルギーで発電した電気の自家消費により、火力発電所で発電される電気を減らすことができるため、二酸化炭素の削減にも寄与できます。

また、太陽光発電の設置により電気料金の高騰の影響を受けにくくなるという経済的なメリットや蓄電池も同時に導入することで、停電時に活用できるメリットがあります。

提案 55	<p>(3)「脱炭素化された電気の利用」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素化された電気の利用→「脱炭素化されたエネルギーの利用」 ・脱炭素化されたガスの利用 <p>と変更するのはどうでしょうか。脱炭素化された電気のみだけではなくガスも包含した、「脱炭素化されたエネルギーの利用」の表現の方がエネルギー全般を網羅できると思われまます。</p>
要望 29	<p>「脱炭素化された電気の利用」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素化された電気の利用→「脱炭素化されたエネルギーの利用」 ・再生可能エネルギー由来の電気 ・ガスやカーボンオフセットされた電気・ガスの購入 <p>以上のように修正するのはどうでしょうか。</p>
提案 56 要望 30 ～ 35	<p>「カーボンオフセットされた電気」について、具体的な説明がないことに大変危惧しています。グリーンな解決策とはいえないような水素、アンモニア、原子力からできた電気を推進する内容であれば、直ちにやめてください。「SDGs 未来都市」の名前に相応しい実行計画を提示してください。</p> <p>「カーボンオフセットされた電気」は、グリーンウォッシュでは？発電時に温室効果ガスを排出しない再生可能エネルギー由来の電気や、カーボンオフセットされた電気を購入することで、市域の脱炭素化を推進します(P20)。とあります。「カーボンオフセットされた電気」とは、具体的にどのような電気を指しますか？化石燃料由来の電気の購入を推進しないでください。</p> <p>「カーボンオフセットされた電気」は本当にカーボンオフセットされているのでしょうか？曖昧に環境に優しいように聞こえる言葉はグリーンウォッシュの危険性があります。それなら地産地消の再生可能エネルギー100%を目指して欲しいです。</p> <p style="text-align: right;">(同様の意見 外4件)</p>

【市の考え方】案の修正

「カーボンオフセットされた電気」は誤解を生じるため、「再生可能エネルギー由来の電気などの利用」とし、下記のとおり「個別施策」と「目標の達成に向けた取組」を修正します。

また、カーボンオフセットされたガスにつきましては、基本施策 3「(5)カーボンクレジットの創出・利用の推進」(修正計画案 28 ページ)を修正します。

※修正前後については、提案 73 要望 40～43 を参照してください。

《修正内容》(修正後計画案 25 ページ)

(修正前)

「(3)脱炭素化された電気の利用

発電時に温室効果ガスを排出しない再生可能エネルギー由来の電気や、カーボンオフセットされた電気を購入することで、市域の脱炭素化を推進します。」

個別施策：脱炭素化された電気の利用

目標達成に向けた取組：

- ・再生可能エネルギー由来の電気やカーボンオフセットされた電気の購入

(修正後)

「(3)再生可能エネルギー由来の電気の利用

発電時に温室効果ガスを排出しない再生可能エネルギー由来の電気の利用を推進します。

また、非常用発電など排出が避けられない電力由来の温室効果ガスについては、カーボンクレジットなどを活用したオフセットを推進します。」

個別施策：再生可能エネルギー由来の電気などの利用

目標達成に向けた取組：

- ・再生可能エネルギー由来の電気の利用
- ・カーボンクレジットなどでオフセットした電気の購入
- ・利用した電気のカーボンクレジットなどによるオフセットの推進

要望 36	再エネを推進してくださっているのですが、「どこの電力会社がどのくらい再エネに力を入れているか」は、電力会社が相当本気にならないと、一般市民には届きにくいです。今は、電気代がいくらかと言うところに目が行きがちですので。ぜひ、電力会社が再エネに移行しやすい環境を整える施策を進めていただきたいです。
----------	---

【市の考え方】今後の参考

電力事業者に対するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

その他 3	原子力発電による電気は今後一切使用しないことを明言すべきです。原子力発電は持続可能な発電方法ではなく、事故の被害は甚大であり、大きなリスクと費用を伴います。
----------	--

【市の考え方】その他

原子力発電に関するご意見として承ります。

基本施策3 新技術・イノベーションの推進（35件）

提案 57	モビリティの電動化 V2H、V2B の導入についても表記が必要だと考えます。
----------	--

【市の考え方】案の修正

モビリティの電動化などの推進には、V2H (Vehicle to Home)・V2B (Vehicle to Building) の導入が必要であるため、下記のとおり「目標達成に向けた取組」を修正します。

《修正内容》(修正後計画案 26 ページ)

(修正前)

個別施策：次世代自動車の導入

目標達成に向けた取組：

※記載なし

(修正後)

個別施策：次世代自動車の導入

目標達成に向けた取組：

・V2H (Vehicle to Home) ・V2B (Vehicle to Building) の導入

提案 58	「基本施策3 新技術・イノベーションの推進」の個別施策において、次世代自動車の導入（バス・タクシー・トラックを含む）と記載があります。その取組みを実現するための方法として、例えば路線バス向けにEVバスを導入企業には、静岡県又は浜松市より補助金支援を頂けると幸いです（補助金制度の新設）。
------------------	---

【市の考え方】 今後の参考

EVバスに対する補助金に関するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

提案 59 ～ 62 要望 37	電動化の推進だけでは、二酸化炭素排出削減等の効果は限定的です。よって、太陽光発電等の導入と合わせた電動化へ絞って支援策を展開する等、具体的で効果の高い施策の明記をお願いします。
	現状は充電ステーションの不足や、実際充電される電気がCO ₂ を排出している問題があるため、例えば太陽光パネルとセットで広めるなど具体的な計画が知りたいです。
	(同様の意見 外3件)

【市の考え方】 今後の参考

自動車の電動化に対するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

なお、自動車の電動化に伴う供給電源の再エネ電源化は必要なことと捉えています。

提案 63	(2)水素技術などの活用「水素は安定供給や非常時利用が可能であり、」の文言について、現段階では安定供給が課題となっておりこの文言は削除するべきではないでしょうか。
------------------	---

【市の考え方】 案の修正

現状の水素技術などの動向を踏まえて、下記のとおり本文と「目標達成に向けた取組」を修正します。

《修正内容》（修正後計画案 27 ページ）

（修正前）

「水素は、再生可能エネルギーや二酸化炭素回収・有効利用・貯留（CCUS）技術などを活用することで、二酸化炭素を排出しないエネルギー源になりえます。アンモニアなどの各種水素キャリアでの利用も含め、水素は安定供給や非常時利用が可能であり、脱炭素につながるエネルギー源として開発が進められています。

水素需要の拡大を図るため、家庭用燃料電池（エネファーム）や燃料電池自動車（FCV）の導入など、水素技術の活用を推進します。」

個別施策：水素技術などの活用

目標達成に向けた取組：

- ・ グリーン水素の製造
- ・ 水素ボイラーなどの熱機関の導入

（修正後）

「使用時に二酸化炭素を排出しないエネルギーである水素の需要を拡大するため、燃料電池や燃料電池自動車（FCV）などの導入を推進します。」

また、再生可能エネルギーを用いて製造されるグリーン水素は、脱炭素燃料として期待されるため、水素の製造方法や供給方法などの動向を注視していきます。同様に燃料としてのアンモニアや合成燃料（e-メタン、e-fuel）などについても動向を注視していきます。」

個別施策：水素技術などの活用

目標達成に向けた取組：

（削除）

	<p>2030 年度目標達成のための施策として、“市” という単位の活動としては効果の高い施策への集中が肝要と考えます。よって、2030 年度の温暖化対策効果の見込めない” (2) 水素技術などの活用” は施策から外した方が良いと考えます。</p>
提案 64 ～ 66	<p>2030 年度目標達成のための施策としてこの項目を掲げることで、水素技術が 2030 年度の温暖化対策に効果があるとの誤った認識を市民に持たせることになってしまいそうです。グリーン水素（製造時に温室効果ガスを排出しない水素）確保の目途が立たない中での” 水素需要の拡大” に意味はあるのでしょうか？今一度、“地球温暖化対策” という原点に立ち戻って考え直してください。</p>
要望 38	<p>水素やアンモニアなど「新技術」とされるものが計画に明記されていると、市民も新しい技術によって気候変動が解決されると誤った認識を持ち、危機感を持って計画に参加する意識が低くなる懸念もあります。</p>
	<p>水素技術は本当に 2030 年までに使用できる技術なののでしょうか？ 確証がない技術を頼りに目標達成を図るのは危険です。現状は水素もアンモニアも化石燃料エネルギーで作られているため、グリーン水素の確保されるまでは手段として考えるのはやめるべきだと思います。</p>

【市の考え方】案の修正

「水素技術などの活用」については、誤解を生む表記であったため、下記のとおり本文と「目標達成に向けた取組」を修正します。

また、2030年までの水素の普及には課題があると考えているため、削減目標量として算出していません。

しかし、2050年にカーボンニュートラルを達成するためには、水素技術などの活用を推進していく必要があります。そのためには、水素などを利用する社会への移行を円滑にする期間が必要と認識しているため、施策の方針には掲げています。

《修正内容》（修正後計画案 27 ページ）

（修正前）

「水素は、再生可能エネルギーや二酸化炭素回収・有効利用・貯留（CCUS）技術などを活用することで、二酸化炭素を排出しないエネルギー源になりえます。アンモニアなどの各種水素キャリアでの利用も含め、水素は安定供給や非常時利用が可能であり、脱炭素につながるエネルギー源として開発が進められています。

水素需要の拡大を図るため、家庭用燃料電池（エネファーム）や燃料電池自動車（FCV）の導入など、水素技術の活用を推進します。」

個別施策：水素技術などの活用

目標達成に向けた取組：

- ・グリーン水素の製造
- ・水素ボイラーなどの熱機関の導入

（修正後）

「使用時に二酸化炭素を排出しないエネルギーである水素の需要を拡大するため、燃料電池や燃料電池自動車（FCV）などの導入を推進します。」

また、再生可能エネルギーを用いて製造されるグリーン水素は、脱炭素燃料として期待されるため、水素の製造方法や供給方法などの動向を注視していきます。同様に燃料としてのアンモニアや合成燃料（e-メタン、e-fuel）などについても動向を注視していきます。」

個別施策：水素技術などの活用

目標達成に向けた取組：

（削除）

提案 67	アンモニアを使用した発電に関してですが、水素、アンモニアは環境にやさしいという認識になってるのではないかと思います。水素、アンモニアは技術の向上でどんどん低コスト化している現存する再エネに比べて燃焼効率が悪く、NOXを排出します。世界的にもグリーンウォッシュではないかと言われている技術なので、一番良いもののよう に 推進する の にはまだ未熟な の ではないでしょうか？
提案 68	特にアンモニアは化石燃料との混焼が推奨されていますが、化石燃料により作られたアンモニアを使用しても削減率は4%くらいになると言われています。そもそも化石燃料をやめなければいけないのに化石燃料とセットで使うアンモニアの利用を推奨する意味がわかりません。

【市の考え方】案の修正

「水素技術などの活用」の中で記載のあったアンモニアについては、誤解を生む表記であったため、下記のとおり本文と「目標達成に向けた取組」を修正します。
2050年にカーボンニュートラルを達成するためには、水素に加えてアンモニアなどの活用も推進していく必要がありますので、これらの動向を注視していきます。

《修正内容》（修正後計画案 27 ページ）

（修正前）

「水素は、再生可能エネルギーや二酸化炭素回収・有効利用・貯留（CCUS）技術などを活用することで、二酸化炭素を排出しないエネルギー源になりえます。アンモニアなどの各種水素キャリアでの利用も含め、水素は安定供給や非常時利用が可能であり、脱炭素につながるエネルギー源として開発が進められています。

水素需要の拡大を図るため、家庭用燃料電池（エネファーム）や燃料電池自動車（FCV）の導入など、水素技術の活用を推進します。」

個別施策：水素技術などの活用

目標達成に向けた取組：

- ・ グリーン水素の製造
- ・ 水素ボイラーなどの熱機関の導入

（修正後）

「使用時に二酸化炭素を排出しないエネルギーである水素の需要を拡大するため、燃料電池や燃料電池自動車（FCV）などの導入を推進します。」

また、再生可能エネルギーを用いて製造されるグリーン水素は、脱炭素燃料として期待されるため、水素の製造方法や供給方法などの動向を注視していきます。同様に燃料としてのアンモニアや合成燃料（e-メタン、e-fuel）などについても動向を注視していきます。」

個別施策：水素技術などの活用

目標達成に向けた取組：

（削除）

提案 69	エネルギー転換の推進はイノベーションを伴わない既存技術で可能なものであるため、基本施策1の後段に配置した方が全体の整合性が取れるのではないのでしょうか。
------------------	--

【市の考え方】その他

計画の構成に関するご意見として承ります。

提案 70	<p>(3)「エネルギー転換の推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー転換の推進 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「エネルギー転換の推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境不可の低い燃料への転換推進 <p>とするのはどうでしょうか。エネルギー全般を対象にすることで効果が大きくなると思われます。</p>
提案 71	<p>温室効果ガスの排出量を削減するため、化石燃料を利用する設備から電気設備への転換を推進します。</p> <p>表：・化石燃料を利用する設備から電気設備への転換</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>温室効果ガスの排出量を削減するため、環境負荷の高い燃料から環境負荷の低い燃料への転換を推進します。</p> <p>表：・環境負荷の低い設備への導入促進</p> <p>※当項目の目的が温室効果ガスの排出量の削減になることからエネルギー全般を対象にすることで効果が大きくなると思われます。*上記項目につきまして、P37 ロードマップの表記も変更となります。</p>
提案 72	<p>エネルギー転換の推進 電気設備への転換はすべての電気を再エネ・非化石由来にはできないこと、基本施策1の「潜熱回収型給湯器の普及」との整合性が取れないことから、「化石燃料を利用する設備から電気設備への転換」の表記は「環境負荷の高い燃料を利用する設備からCO₂削減効果が高い設備への転換」とするべきではないのでしょうか。</p>

【市の考え方】案の修正

「エネルギー転換」は、「燃料転換」と「電化」に分けることができるため、「エネルギー転換の推進」を「燃料転換の推進」と「電化の推進」に分け、それぞれについて「個別施策」と「目標達成に向けた取組」を記載します。

《修正内容》(修正後計画案 28 ページ)

(修正前)

(3) エネルギー転換の推進

個別施策：エネルギー転換の推進

目標達成に向けた取組：

- ・化石燃料を利用する設備から電気設備への転換
- ・水素やバイオマス由来のガスなど、より低炭素なエネルギーを利用した設備への転換

(修正後)

(3) 燃料転換の推進

個別施策：燃料転換の推進

目標達成に向けた取組：

- ・ 水素やガスなど、より低炭素なエネルギーを利用した設備への転換

(4) 電化の推進

個別施策：電化の推進

目標達成に向けた取組：

- ・ 化石燃料を利用する設備から電気設備への転換

要望 39	カーボンクレジットの導入は効果が出るまで時間もかかりますし、実態を伴っていない状態なので期待できないように思います。
------------------	--

【市の考え方】 その他

カーボンクレジットに関するご意見として承ります。

2050年にカーボンニュートラルを達成するためには、どうしても排出が避けられない温室効果ガスの排出をオフセットするためのカーボンクレジットは必要と認識しています。

提案 73	カーボンクレジットは「対価を払えばCO ₂ の排出が相殺される」という誤った認識をうむ危険性を感じます。そもそも排出を少なくしなければならぬのですから、「炭素税」として徴収するほうがいいのではないのでしょうか。
要望 40 ～ 43	市内で、カーボンクレジットを創出し、市内での利用を推進するとのこと、“利用の推進”は一步間違えれば“クレジットの対価さえ払えば二酸化炭素を排出しても構わない”という風潮を生んでしまいそうです。”地球温暖化対策”に資する取り組みとなるような表現をご検討ください。 <p style="text-align: right;">(同様の意見 外3件)</p>

【市の考え方】 案の修正

カーボンクレジットの創出・利用について誤解を生まないようにするため、下記のとおり本文を修正します。

《修正内容》(修正後計画案 28 ページ)

(修正前)

「市内で、こうしたカーボンクレジットを創出し、市内での利用を促進します。また、カーボンクレジットで排出される二酸化炭素をオフセットしたガスなどの燃料の利用を推進します。」

(修正後)

「こうしたカーボンクレジット制度を踏まえ、まずは徹底した省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの最大限の導入を実施した上で、排出が避けられない温室効果ガスについては、市内で創出されたカーボンクレジットでオフセットする“カーボンクレジットの地産地消”を推進します。」

提案 74 ～ 77	二酸化炭素の10倍の温室効果を持つとも言われるメタンは、我々の食生活も影響しています。非エネルギー分野のイノベーションとして、食生活分野の変革も重要な要素と考えますのでそのような項目も追加してください。 (同様の意見 外3件)
---------------------	--

【市の考え方】今後の参考

肥料の使用などで排出される一酸化二窒素や水田などから排出するメタンについては、非エネルギー起源の温室効果ガスとして排出抑制が必要です。

いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。

そ の 他 4	農業についても、植物を育てている点は同じなので活性化させてほしい。
------------------	-----------------------------------

【市の考え方】その他

農業分野に関するご意見として承ります。

提 案 78	プラスチック込み問題は深刻です。分別回収はもちろん、そもそもゴミの量を少なくしなければ意味がありません。プラスチック包装なしでの野菜や果物の販売を推奨したり、量り売りお店に補助を出すなどプラスチック包装されていないものの流通を多くする施策が必要です。
--------------	---

【市の考え方】今後の参考

プラスチックなどの廃棄物の焼却により排出される二酸化炭素の削減に関するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

質 問 10	廃棄物焼却量の削減→事業者 運輸の「○」が無い理由？ 廃棄物の発生は少なからずあると思う。
--------------	--

【市の考え方】その他

鉄道、船舶、貨物車、乗用車など輸送機器によって消費されるエネルギー起源の二酸化炭素を削減する取組で該当する場合、「運輸」に「○」を付けています。「廃棄物焼却量の削減」は、輸送機器によって消費されるエネルギー起源に該当しないため、「○」を付していません。

要 望 44 ～ 47	<p>地方炭素税等、世の先駆けとなり社会を変革するような自治体発のイノベーションにも期待しています。</p> <p style="text-align: right;">(同様の意見 外3件)</p>
-------------------------	--

【市の考え方】 その他

自治体への期待として承ります。

基本施策4 二酸化炭素吸収源の確保（14件）

提 案 79	<p>西栗倉を参考に地元である龍山町でできることを考えました。薪ボイラーを町唯一の銭湯に。龍山で薪ボイラーを活かせるのは町唯一の銭湯であるやすらぎの湯である。やすらぎの湯は、年間5000人訪れ、龍山町では大きな観光資源である。費用を少しでもカットしながら、薪ボイラーの銭湯で気持ちよさをアピール。</p>
提 案 80	<p>カーボンニュートラルの実現に向けて、浜松市の中山間地域は大きな可能性を持つエリアだと思います。また、脱炭素先行地域に指定してされ、モデル地域になっていくポテンシャルを秘めている地域です。そのためにまずは、日本三大美林である天竜杉など素晴らしい自然を持つ浜松市は森林の整備が重要だと思います。今回山に取り残されている未利用間伐材を有効活用することで、新たな産業やエネルギーを生むことができると考察しました。</p>

【市の考え方】 今後の参考

森林資源の利用に関するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

そ の 他 5	<p>二酸化炭素吸収源の確保について、その中で木質バイオマス発電・ボイラーの導入についてですが、今年10月の市議会決算審議特別委員会で、佐久間地区で住民が進める木質バイオマス熱電供給構想で国の補助を受けて計画に取り組んだが、期限内に完成せず補助金を返還したことがある。地域の一員として非常に心配しています。計画は大丈夫でしょうか。</p>
------------------	---

【市の考え方】 その他

ご意見として承ります。

提案 81	「基本施策4 二酸化炭素吸収源の確保」において、例えばCO ₂ 有効利用施策も併せてご検討頂けると幸いです。具体的には、CO ₂ 有効利用ビジネスに取り組む企業誘致、大学との共同研究、補助金支援及びインフラ、サプライチェーンの創出支援など。
要望 48	産学官の連携でCO ₂ 削減だけでなく排出CO ₂ の有効利用方法も模索すべきではないでしょうか？

【市の考え方】 今後の参考

二酸化炭素の有効利用などに関するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

二酸化炭素の有効利用などの技術開発に関する取組については、「基本施策3 施策の方針(7) カーボンニュートラル関連技術の開発推進」の取組の一つに位置付けています。

要望 49	林業はもうからない産業となっているため、森林の荒廃が起こっている。林業へのサポートは必要である。天竜材の利用についてもオリンピックでの使用等一時的なものではなく、地産地消できるように、付加価値を付けられるように考えて欲しい。
質問 11	森林には公用林と民有林があり、どちらも担い手が少ない状況である。民有林管理への支援は含まれているのか。
その他 6	森林を育てる施策は浜松らしくて素晴らしいと思います。さらに独自のやり方で地球環境を守っていけたらと思います。

【市の考え方】 今後の参考

森林資源の利用推進と林業の活性化に関するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

市では、「浜松市森林・林業ビジョン」に基づき、民有林における間伐や主伐、植林などの森林整備やFSC®森林認証面積の拡大、天竜材の利用促進などの支援策を推進しています。

要望 50	二酸化炭素吸収源の確保目標達成に向けた取り組みのなかに、早生樹の植樹の取り組みがないのは意外です。静岡県ではいろいろな研究が進んでいると聞いていますが、杉やヒノキの植林による人工林を森林資源として考える事も大事ですが、別のアプローチについての検討も必要ではないでしょうか？
------------------	--

【市の考え方】 今後の参考

早生樹などの取組に関するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

提 案 82 ～ 85	<p>長期的視点で、“二酸化炭素吸収源の確保”は“地球温暖化対策”に重要であることには同意します。一方で2030年度目標達成の手段として吸収源対策分を積み上げることの妥当性には疑問があります。また、“間伐材などを木質バイオマス燃料として利用することで化石燃料の使用量削減にもつながります”とのことですが、この方法では大気中へ二酸化炭素が放出されることには変わりがなく“地球温暖化対策”への効果はありません。よって、ここで掲げている“目標：吸収量271.8千t-CO₂”は2030年度に実効性のある別の施策に振り分けることを提案します。</p>
要 望 51	<p>「間伐材をバイオマス燃料とすることで化石燃料の使用削減」とありますが、化石燃料を減らすことではなくCO₂の排出を減らすことが目的であり、結局燃やしてCO₂を排出するものを温暖化対策の柱の一つにするのはおかしいと思います。</p>
	(同様の意見 外3件)

【市の考え方】その他

森林による二酸化炭素吸収量に関するご意見として承ります。

本計画では、森林により吸収された二酸化炭素のみを森林吸収量としており、バイオマス燃料として利用する木材分は、森林吸収量に含んでいません。

化石燃料から木質バイオマスなど脱炭素燃料への転換により、二酸化炭素の排出削減につながるため、木質バイオマス燃料利用を推進していきます。

6 第6章 適応策（気候変動適応に関する施策）（19件）

提 案 86	<p>(1)「農業・林業・水産業」分野林業のところに、本市が取り組む適応策として「保安林整備による、水源かん養、災害の防備などの公益機能の向上」と書かれていますが、再生可能エネルギーの最大限の導入とこの適応策は相反する事にはならないでしょうか？ 環境影響評価を行うから問題ないという考え方もありますが、環境影響評価を行うのは、環境に対してなんらかの影響が出ることが予想されるからです。環境影響評価を必要とする再生可能エネルギーの事業に対しては、その影響を考慮しても、それを上回る保安林の公益機能の向上が図られる場合とするべきではないでしょうか？</p>
-----------------------	--

【市の考え方】案の修正

地域と調和した再生可能エネルギーの最大限の導入を推進するため、下記のとおり「個別施策」を修正します。

《修正内容》（修正後計画案22ページ）

（修正前）

再生可能エネルギーの最大限の導入

(1) 再生可能エネルギーの導入

個別施策：再生可能エネルギーの最大限の導入

(修正後)

再生可能エネルギーの最大限の導入

(1) 再生可能エネルギーの導入

個別施策：地域と調和した再生可能エネルギーの最大限の導入

要望 52	(4)「自然災害・沿岸域」分野、(5)「健康」分野において懸念される影響は人命や健康を脅かす課題ですね。医療・保健機関が取り組むべき適応策も盛り込んでいただきたいと思いますと考えております。
要望 53	「自然災害・沿岸域」分野の「本市が取り組む適応策」に、既に市が策定されている医療救護計画についても言及し、本計画においても気候変動に強い医療・保健の整備も心得ていることを示すのはいかがでしょうか。
その他 7	地域課題の案件でも言っているが、安否確認の訓練は行っているのか。自主防から市、県への報告体制についても行っているのか。生存者への支援がしっかりできるように対策すべき。

【市の考え方】今後の参考

「自然災害・沿岸域」分野と「健康」分野の適応策に関するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

提案 87	<p>医師会にもご協力いただいて、診療所に通院している患者向けの熱中症予防動画を作成して、各診療所の待合で熱中症予防のニーズが高まった時に再生してもらい、診療所に勤務する看護職から高齢患者さんに動画内容を交えた生活指導してもらうことをご提案いたします。診療所看護職は、同じ診療所に長く勤めており、診療所周辺の地域住民の健康レベルだけでなく家族関係や社会的情報も把握しております。更に、高齢者の一般的な熱中症リスクを十分把握している上に診療所で把握している各患者の健康状態や治療状況も把握しており、高齢患者個々に対して脱水のフィジカルアセスメントする能力も備わっております。高齢患者の生活実態に沿った熱中症予防の知識提供だけでなく、通院時に熱中症リスクアセスメントをすることもできます。看護職のリスクアセスメント評価を医師と診察前に共有することで、医師は熱中症疑いも視野にいたした身体診察ができ、高齢患者の持病への影響やこれまでの治療経過を考慮して各患者に適した治療法を見出せるのではないかと思います。浜松市内でこの活動が広まれば、高齢者の健康レベルが維持し、熱中症の救急搬送数も激減すると思われれます。</p> <p>地域包括ケアの推進・深化の観点からも、このような活動事業についてご一考いただければ有り難いです。必要でありましたら、微力ですがお手伝いさせていただきます。</p>
----------	--

要望 56 ～ 58	住宅の導入とあるが、どの程度の創エネ、省エネ、蓄エネが必要か定義や指数を決めるべきです。(例えば断熱のレベルの設定、太陽光パネルの設置義務など)これではどのような家を作るべきなのか市民も事業者もわかりません。
	(同様の意見 外2件)

【市の考え方】 今後の参考

太陽光発電設備の導入などの義務化は、社会状況を見極めた上で、検討課題とさせていただきます。

質問 18	(2)「水環境・水資源」分野懸念される影響として「無降雨・少雨による水量低下」とあるが、雨の降り方が極端になっている一方で、年間降雨量に大きな変化はないというデータがあります。またこれに関連して、天竜川水系の水量低下についての具体的なデータはあるのでしょうか？ またそれはどこに公表されているのでしょうか？平成の名水百選にも選ばれている阿多古川の水量の低下なども、旧天竜市時代から言われていますがそれを示す具体的なデータなどはあるのでしょうか？
------------------	--

【市の考え方】 その他

天竜川水系の水量低下についての具体的なデータは把握しておりませんが、「静岡県の気候変動影響と適応取組方針」において、天竜川に渇水傾向があることが記載されています。

その他 8	畜産による温室効果ガスの排出量は14%をしめていただいております。家畜の飼料となる穀物の生産に大量の森林破壊が行われこの事が生態系の破壊にも繋がっています。またこの飼料の生産には大量の農薬や化学肥料を使用し単一の作物を生産するため土壌の劣化を引き起こしています。その他にも水質汚染、感染症などの問題や、抗生物質とホルモン剤の過剰仕様など大変問題の多い産業です。以上により畜産のあり方自体を見直すべきではないでしょうか？プラントベースの食を推進するなど、積極的な取り組みをするべきではないでしょうか？
------------------	---

【市の考え方】 その他

「農業・林業・水産業」分野に関するご意見として承ります。

その他 9	適応策についてはこれだけの問題があることを市民が認識できるように何か手を打つ方法はないのかと考えます。市民も協働して進めていきたいです。
------------------	--

【市の考え方】 その他

計画の内容や取組について市民の皆様にはわかりやすく伝えるための概要版を作成し、各種セミナー等のイベントや相談会、出前講座、市HP、SNSなど様々な場面を通じて周知していきます。

第7章 2050年長期ビジョン（19件）

提 案 88 ・ 89 要 望 59	<p>水素やアンモニアなど次世代エネルギーを利用する設備に転換水素（グリーン水素以外）もアンモニアも化石燃料で作られている上に輸入品。問題の解決にならない。水素やアンモニアはおそらく火力発電の燃料だと思うが、2050年にRE100を目指すのならそもそも燃焼させるものを準備する必要はない。再エネ100%を目指すべき。</p> <p>次世代エネルギーを利用する設備への転換を推進は、水素やアンモニア混焼火力発電のことでしょうか？水素、アンモニアは製造や輸送の過程で大量の二酸化炭素を排出します。脱炭素社会の実現に逆行したものです。早急に石炭火力をフェーズアウトさせるロードマップを策定していくべきではないでしょうか。</p>
	（同様の意見 外1件）

【市の考え方】その他

水素技術などに関するご意見として承ります。

第5章においては、2030年までの「基本施策」などを記載していますが、第7章では、2050年までの長期ビジョンとして記載しています。

現時点で、水素やアンモニアに関する技術などについて否定的なご意見のある技術であったとしても、2050年カーボンニュートラル実現に向けては、排除してはならないものと考えています。

要 望 60 ～ 62	<p>カーボンニュートラルガス</p> <p>本当にカーボンオフセットされたものなのか不明確でグリーンウォッシュの危険性がある。結局燃やしてCO₂を出すものなのだから利用するべきではない。</p>
	（同様の意見 外2件）

【市の考え方】その他

カーボンニュートラルガスに関するご意見として承ります。

現時点で、否定的なご意見のある技術であったとしても、2050年カーボンニュートラル実現に向けては、排除してはならないものと考えています。

要 望 63 ～ 66	<p>RE100について、バイオマス発電は結局火力発電なのだから3倍にふやすのではなく、そもそもバイオマスになる廃棄物を減らす努力が必要では？（燃やすのではなく堆肥化など？）</p> <p>バイオマス発電は結局のところ火力発電なのであまり目標値を上げて欲しくないと思います。廃棄物を燃やすのではなく堆肥化など別の活用方法で役立ててほしいです。</p>
	（同様の意見 外2件）

【市の考え方】その他

バイオマス発電に関するご意見として承ります。

質問 19	チャレンジ目標の表で大規模水力を含んだり、のぞいたりしての数値を出すのは何か意味があるのでしょうか？
------------------	--

【市の考え方】その他

「浜松市域“RE100”」とは、市内の総消費電力に相当する電気を、大規模水力を含む市内の再生可能エネルギー施設で生み出すことが出来る状態を言うため、大規模水力発電の発電量を含む再エネ電力自給率も計算しています。

質問 20	浜松市域 RE100 へのチャレンジ目標ここで示されている数値目標ですが、チャレンジ目標だとしてもあまりに現実離れしているのではないのでしょうか？RE100 を達成するために、無理やり作った数字としか思えません。数値目標をはじき出すにあたって、関連性のある課との検討などは行われたのでしょうか？あくまで「チャレンジ」するための目標なのかも知れませんが、数字は必ず一人歩きを始めます。これらの数字を公表する責任と、将来に渡っての影響まできちんと考えたうえでの目標であるのならば、もっと具体的な内容を示した上での数値目標を示すべきではないのでしょうか？
------------------	--

【市の考え方】案の修正

「浜松市域“RE100”」は、チャレンジ目標としての位置づけです。

再生可能エネルギーの導入状況と 2050 年までの導入可能性を再度検討した結果、下記のとおり 2050 年度の再生可能エネルギーの導入目標を修正します。

太陽光発電については、2030 年までの導入ペース（平均 51,000MWh/年）を維持する目標を設定しています。

風力発電については、環境アセス手続きが進められている案件の稼働を見込み、目標を設定しています。

バイオマス発電や大規模水力発電は 2030 年度の発電量を維持、小規模水力発電は本市が把握している民間事業者の導入計画をもとに目標を設定しています。

《修正内容》（修正後計画案 42 ページ）

（修正前）

★浜松市域“RE100”へのチャレンジ目標

		2013 年度（実績）	2030 年度（目標）	2050 年度（目標）
再生可能エネルギー 導入量(MWh)	太陽光発電	158,507	720,000	800,000
	風力発電	51,724	517,240	1,200,000
	バイオマス発電	66,472	121,880	200,000
	小規模水力発電	0	11,040	15,000
	計（A）	276,703	1,370,160	2,215,000
	大規模水力発電	2,330,241	2,330,241	2,330,241
	計（B）	2,606,944	3,700,401	4,545,241
市内の総電力量（MWh）	（C）	5,119,965	4,700,000	4,545,000
再エネ電力自給率	大規模水力除く A/C	5.4%	29.2%	49.2%
	大規模水力含む B/C	50.9%	78.7%	101.0%

(修正後)

★浜松市域“RE100”へのチャレンジ目標

		2013年度(実績)	2030年度(目標)	2050年度(目標)
再生可能エネルギー 導入量(MWh)	太陽光発電	154,886	1,179,000	2,199,000
	風力発電	51,724	52,000	1,235,000
	バイオマス発電	66,472	131,000	131,000
	小規模水力発電	0	2,000	18,000
	計(A)	273,082	1,364,000	3,583,000
	大規模水力発電	2,196,759 ^{※1}	2,395,000 ^{※2}	2,395,000 ^{※2}
	計(B)	2,469,841	3,759,000	5,978,000
市内の総電力量(MWh)	(C)	5,119,965	4,700,000	4,500,000
再エネ電力自給率	大規模水力除く A/C	5.3%	29.0%	79.6%
	大規模水力含む B/C	48.2%	80.0%	133%

※1 市内の大規模水力発電(佐久間発電所、佐久間第二発電所、秋葉第一発電所、秋葉第二発電所、秋葉第三発電所、船明発電所、水窪発電所、気田発電所、西渡発電所、豊岡発電所)の2013年の発電量(出典「図表で見るしずおかエネルギーデータ」(静岡県(令和5年3月))

※2 市内の大規模水力発電の2016年の発電量(出典「図表で見るしずおかエネルギーデータ」(静岡県(令和5年3月))を2030年度の発電量として掲載

提 案 90 ~ 92	<p>太陽光発電設備をはじめとした再生可能エネルギーを可能な範囲で導入に向けて、新築物件の建築・販売の際、太陽光発電設備の義務化を！公正の観点から、様々な背景を持つ市民に設置負担を求めるのではなく、ハウスメーカーに太陽光発電設備の義務化を求めてください。太陽光発電設備設置義務化をロードマップに入れてください。</p> <p style="text-align: right;">(同様の意見 外2件)</p>
-------------------------	---

【市の考え方】今後の参考

太陽光発電設備の導入義務化は、社会状況を見極めた上での検討課題として、今後の参考とさせていただきます。

要 望 67	<p>全体を通して、トランジション期である2030年までの目標と技術革新・イノベーションによる2050年カーボンニュートラル達成が混在しており、分かりづらいように思います。</p>
--------------	--

【市の考え方】その他

第5章は2030年までの目標、第7章は2050年カーボンニュートラル実現までの長期ビジョンを記載しています。

また、本計画では、2030年までの取組と2050年までの取組をロードマップで記載しております。

なお、それぞれの取組については、今後の社会環境の変化や技術革新などにより柔軟に見直していきます。

要望 68	長期的な目標はとても重要ですが、「次世代」「新技術」など未知の力に頼っているという感じを強く持ちました。書かれている「技術革新」がなかった場合どのように対応するのか、という部分の説明が細いです。
要望 69 ・ 70	<p>新技術による省エネルギー化 まだない新技術に頼る計画は目標が達成できるか不明瞭になるため、今ある技術で最大限どれだけ省エネできるかを提示し実現していくべき。</p> <p style="text-align: right;">(同様の意見 外1件)</p>

【市の考え方】その他

2050年カーボンニュートラル実現に向けては、現存の省エネ・再エネ技術等の活用はもとより、さらなるカーボンニュートラル関連の新技術やイノベーションが必要であると認識しています。

そのため、基本施策3において、「(7)カーボンニュートラル関連技術の開発推進」を掲げ、新たな技術の開発やビジネスの創出を推進していきます。

第8章 計画の推進（36件）

提案 93 ～ 98	<p>率先的な立場で緩和策及び適応策として、非住宅の断熱と省エネ設備の拡充を！建築物のCO₂排出は3割*を占めます。市が取り組めるエネルギー効率改善策として下記の取り組みを求めます。</p> <p>エネルギー効率改善・民間事業者への「省エネ最適化診断」・学校や公共建物への省エネ設備の設置・学校や公共建物の断熱リフォーム・公共施設に太陽光発電と蓄電池を設置等</p> <p>家庭で排出する温室効果ガスの見える化と並行して、非住宅のエネルギー使用量の見える化も進めてください！市民が生活におけるエネルギー消費量を知り、省エネルギーを意識することも重要ですが、市が非住宅のエネルギー使用量を見える化することも、市民の省エネルギー活動を促進する後押しになると考えられています。このような取り組みを実施する予定はありますか。</p> <p style="text-align: right;">(同様の意見 外4件)</p>
-------------------------------	---

【市の考え方】今後の参考

市民、事業者の取組については、必要な取組として認識しており、事業活動や市民生活の取組の中に位置付けております。

市の取組については、令和5年9月に策定した「市有施設脱炭素化方針」で進めていくことを定めています。

要望 71 ～ 74	<p>市民への情報提供という重要な役割を担うはずの「浜松市地球温暖化防止活動推進センター」ですが、運営委員の人選基準が公表されておらず、透明性に欠けている点に問題を感じます。提供する情報に偏りをなくすためにも、運営委員の選出方法を明確にし市民に開示してください。</p>
	<p>浜松地域脱炭素経営支援コンソーシアム 浜松市カーボンニュートラル推進協議会 浜松市地球温暖化防止活動推進センター</p> <p>上記の3つの運営について、運営委員の人選や構成事業者など詳しく公開することを求めます。特に市民に向けた情報を発信する立場である浜松市地球温暖化防止活動推進センターについては、本当に意義のあるものになって欲しいと思うので細かい情報公開を求めます。</p> <p style="text-align: right;">(同様の意見 外2件)</p>

【市の考え方】今後の参考

「浜松地域脱炭素経営支援コンソーシアム」、「浜松市カーボンニュートラル推進協議会」、「浜松市地球温暖化防止活動推進センター」に関するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

要望 75	<p>「浜松市地球温暖化防止活動推進センター」を通じて、地球温暖化の現状やその防止対策の重要性などを座学や研修会、展示会などにより広く市民に情報提供します。</p> <p>→具体的な実施回数などの記載が欲しい。</p>
------------------	---

【市の考え方】今後の参考

「浜松市地球温暖化防止活動推進センター」の活動内容については、HPなどで発信していきます。

要望 76 ～ 79	<p>事業者に対し「公正な移行」の観点を取り入れた施策の拡充を！資本力の小さな事業者ほど、ビジネスの脱炭素化は経営負担が大きく、方針の転換が難しい状況です。浜松市は県と協働し「公正な移行」を実現するための施策を早急に講じ、事業者の気候変動適応をサポートしてください。</p> <p style="text-align: right;">(同様の意見 外3件)</p>
-------------------------------	---

【市の考え方】今後の参考

事業者の脱炭素経営支援に関するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

提案 99 ・ 100 要望 80 質問 21 ～ 24	<p>図表 8.2 にも市民が進捗をチェックできる場がありません。このままでは市民は計画にほぼ関わらないことになり、これは大きな問題点です。日本各地で開催されている「気候市民会議」などを参考に、市民が直接関わられる場を作るべきです。</p> <p>市の未来に関する重要な決定は、長野県のように、県民の声を聞く機会をしっかりと設けてから決めて下さい。</p> <p>計画の進捗管理・チェックに、市民の声を反映させる仕組みづくりを！この図にある推進体制には、市民の声を届ける仕組みがありません。温暖化対策とは、市民の命・生活に直結するものです。それにもかかわらず、市民が「(一方的に) 啓発される」側に位置付けられ、利害関係者のみで計画が策定されている状況は問題ではないでしょうか。市民を重要なアクターとし、民主的な実行計画を目指し、日本の各地で「気候市民会議」が開催されています。浜松市としてはこのように、市民が「浜松市地球温暖化対策実行計画」に提言する機会を設ける予定はありますか。</p> <p style="text-align: right;">(同様の意見 外 4 件)</p>
---	---

【市の考え方】案の修正

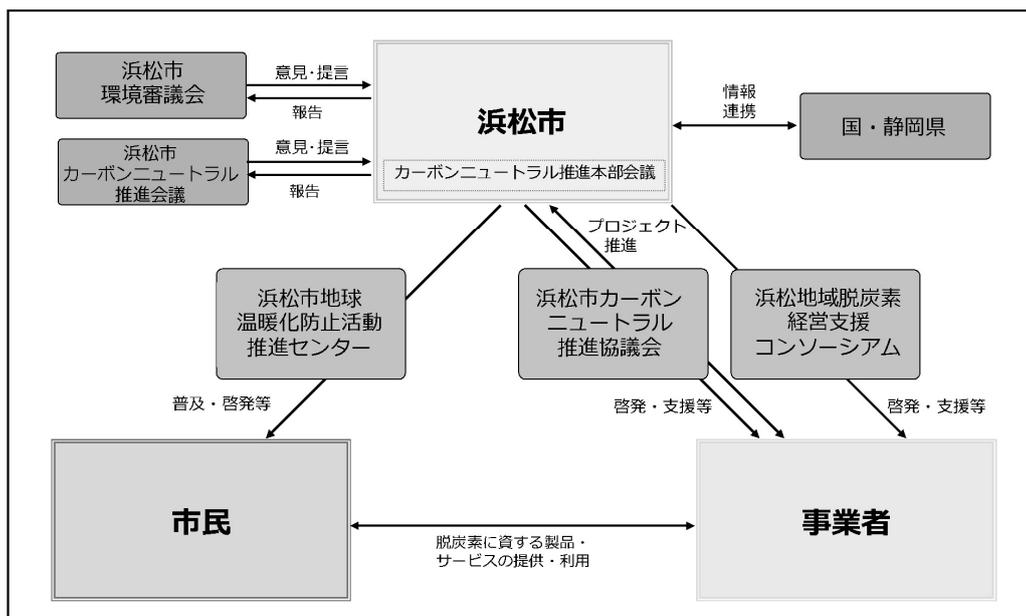
市民・団体からの意見・提案などを共有することを必要であるため、下記のとおり本文と図 8.1 を修正します。

市民から「浜松市地球温暖化防止活動推進センター」を通じて浜松市へ向かう矢印を追加しました。

《修正内容》(修正後計画案 45 ページ)

(修正前)

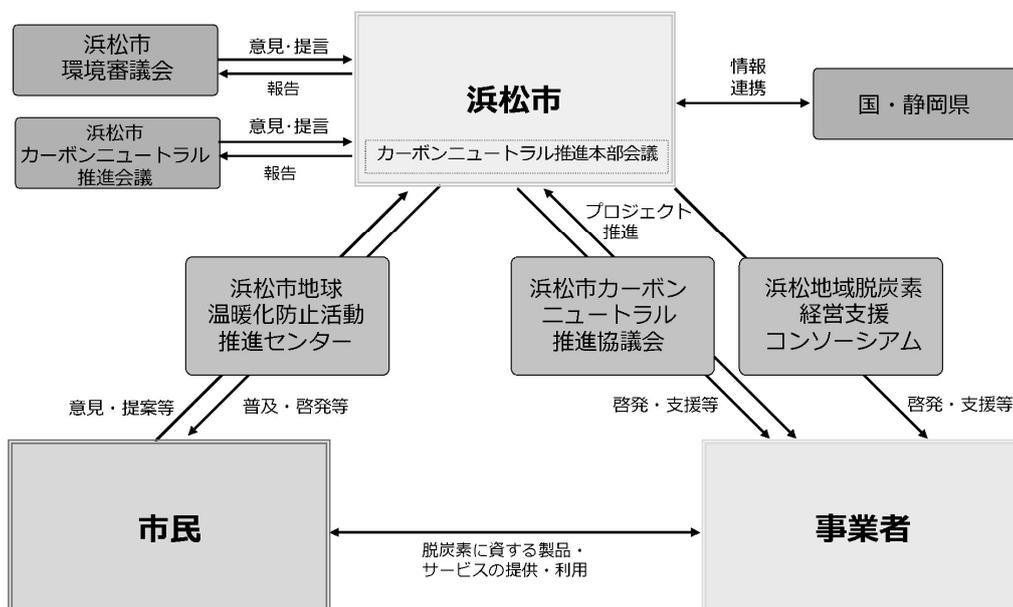
「さらに、市民に対しては、「浜松市地球温暖化防止活動推進センター」を通じて、地球温暖化の現状やその防止対策の重要性などを座学や研修会、展示会などにより広く市民に情報提供します。」



図表8.1 推進体制

(修正後)

「さらに、市民に対しては、「浜松市地球温暖化防止活動推進センター」などを通じて、地球温暖化の現状やその防止対策の重要性などを座学や研修会、展示会などにより広く情報発信します。また、「浜松市地球温暖化防止活動推進センター」などを通じて市民・団体からの意見・提案などを収集し、官民一体となった今後の施策に活かしていきます。」



図表8.1 推進体制

要望 81	事業者に対して脱炭素に向けた補助はどのようなものが計画にあるのでしょうか？
------------------	---------------------------------------

【市の考え方】その他

令和5年度は、事業者向けに太陽光発電設備と蓄電池の設置に関する補助金などを交付しています。

その他については、市HPなどでご確認をお願いします。

要望 82	<p><市民>市民一人ひとりが実践する削減目標量を分かりやすく記載して欲しい。(例として一般家庭用のモデル世帯の取組み削減目標値)</p> <p>→見える化することで・・・と記載されているがどのように見える化するのか具体的な内容を書いて欲しい。</p>
------------------	--

【市の考え方】その他

計画や取組について、市民の皆様にはわかりやすく伝えるための概要版などで示してまいります。

要望 83 ・ 84	<p>(市民が使用する)生活家電事業者に対し、GHG (CO₂換算)を可視化するプロダクトの開発を促してください。</p>
	(同様の意見 外1件)

【市の考え方】その他

現在、家電メーカーは、競って省エネ家電の開発・販売を進めています。
また、製品単位の温室効果ガス排出量の見える化には、経済産業省と環境省が「カーボンフットプリントガイドライン」を定めて推進しています。

提案 101 ～ 104 質問 25 ～ 27	<p>ハイブリッド車は結局ガソリンを使用するのでCO₂排出削減の手段に入れるべきではないと思います。</p>
	<p>ハイブリッドではなく、電気自動車の普及促進の施策を！ハイブリッドはガソリンを使うことから、2035年までに、乗用車新車販売で電動車100%という日本政府の目標や、各国の規制があります。それにも関わらず、市民に「ハイブリッド車」の選択を促すのは問題ではないでしょうか。問題と考えない場合は、その理由を教えてください。</p>
	<p>また、電気自動車を購入しても、EVステーションが少ないことで利便性が担保できない現状が課題とされており、早急なEVステーションの拡充が求められています。浜松市としては、どのような解決策を講じる予定でしょうか。</p>
	(同様の意見 外4件)

【市の考え方】今後の参考

電気自動車やハイブリッド車など電動車の推進に関するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

国の「地球温暖化対策計画」においても、電動車にはハイブリッド車を含むため、本市の計画においても同様に電動車を推進していきます。

要望 85 ・ 86	<p>省エネルギー製品の購入や利用がしやすくなるような仕組み(減税・補助金・規制など)を施策として講じてください。</p>
	(同様の意見 外1件)

【市の考え方】今後の参考

省エネルギー製品の購入や利用に関するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

提 案 105	現在のシステムではお金に余裕がある、または環境問題への意識が強くある人でないとCO ₂ 削減に向けた生活や行動は起こせない状況です。そのため太陽光パネルや断熱の義務化、また生ゴミの分別回収や梱包フリー販売などを義務にすることで、全ての人が普通に生活するだけでCO ₂ を出さない生活ができる社会へのシステムチェンジが必要です。
------------------------	---

【市の考え方】 今後の参考

太陽光発電設備の導入などの義務化は、社会状況を見極めた上での今後の検討課題とさせていただきます。

その他（9件）

要 望 87	将来のある時点を生きる「仮想将来人」になりきり、その時の社会を想像し、現在の政策を導き出す「フューチャーデザイン」が注目されています。財務省は省内に担当チームを設置し、今年からパンフレットを作製したり、企業や高校など向けの講習会を開催し、普及に取り組んでいます。「過去の延長線上でない気候対策」を計画するため、浜松市でも「フューチャーデザイン」を自治体政策づくりに取り入れてください。
そ の 他 10	パーマカルチャーの視点を取り入れては？パーマカルチャーの大切な考えとして <ul style="list-style-type: none"> ・PEOPLE CARE（人々と自分自身、そして過去や未来の存在を大切にする） ・EARTH CARE（自然と生き物を大切にする） ・FAIR SHARE（豊かさの分かち合いによって人々や多様な生きものたちの必要を満たす） という3つがあります。この考えを持って進めていくことが今とても必要なことなのではないかと思えます。

【市の考え方】 その他

ご意見として承ります。

要 望 88	作注があると理解しやすいと感じた。
-----------------------	-------------------

【市の考え方】 その他

本編の後に資料編として用語解説を掲載します。

要望 89	日本はCO ₂ 排出量で世界第5位だという事実に驚きました。このような事実を、市民や国民にわかりやすく伝えることも、人々の意識を変えるために、必要なことだと思います。気候変動対策のモデル都市としてご尽力頂いている浜松市さんに、市民の意識改革にも力を入れて頂き、日本の実状をより広くわかりやすく伝えて頂きたく思います。
要望 90	地球温暖化対策において、市民や事業者の理解・協力を得るのは簡単ではないと思いますがぜひぜひ他自治体のモデルになるよう、頑張ってください。
要望 91	浜松市の素晴らしい取り組みや、気候変動が危機的状況であることをもっと県民の方々に知ってもらいたいです。メディアを使っの、県からの積極的なPRも是非お願いしたいです。

【市の考え方】 今後の参考

周知・PRに関するご意見として、今後の参考とさせていただきます。

気候変動対策は、市民や事業者の皆様の理解と協力のもと、市と一体となって進めていくことが必要です。

市としては、市民や事業者の皆様に対して、積極的な周知・PRを行っていきま

提案 106	浜松市地球温暖化対策実行計画の見直しについて 地球温暖化を巡る状況が刻々と変化するなか、この計画も2012年に策定以降、2017年4月と2021年4月に改定したとあります。しかしながらその改定にあたって、策定した目標や対応策の問題点や課題をどう検討したのかという事がどこにも書かれていません。例えば再生可能エネルギーの導入にあたっては、以前の目標に対して何%達成したのか、また達成出来なかった場合は何が課題となっているのかなどの検証は行っているのでしょうか？すでに策定された計画のどこに課題があったのかという検証や、それらをどうクリアしていく事が出来るのかという課題解決の方法の提示があつて初めて、将来目指すべき数値目標の設定が出来のではないのでしょうか？
-----------	--

【市の考え方】 その他

本計画の実施に当たっては、毎年度、市の付属機関である「浜松市環境審議会」や、外部有識者で組織する「浜松市カーボンニュートラル推進会議」、市長をトップに庁内で組織する「浜松市カーボンニュートラル推進本部会議」において、進捗管理を行っています。

また、こうした組織体の中で、課題の共有や解決方策等の検討・調整も行っています。

要望 92	網羅性は良いと思う。何年に何を重点的に行うのかをはっきりさせてほしい。担当のやる気が伝わるようにしてほしい。
------------------	--

【市の考え方】その他

毎年度に取り組む事業は、本計画の毎年度の実施計画に位置付けている「カーボンニュートラル推進計画」で示していきます。

質問 28	本計画の中心部署、取りまとめている部署は。
------------------	-----------------------

【市の考え方】その他

カーボンニュートラル推進事業本部です。